（様式－3）

# 再発防止対策報告書

東北支部

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発生日時 | 2024 年 7 月 19 日（金曜日） 13 時 20分頃 | | | | | | | 天候 | 曇り | |
| 災害の程度 | 死亡 名 | | 負傷 1 名 | | 職種 伐採作業員 | | 年令 36 才 | | 経験年数 2年5ヵ月 | |
| 工事の種類 | 調査測量 | 伐採 | 運搬 | 仮設 | 基礎 | 組立 | 足場 | 架線 | 撤去 | その他 |
| 災害の種類 | 墜落・転落 | 転倒 | 物の飛来・落下 | 崩壊・倒壊 | はさまれ・巻き込まれ | 切れ・こすれ | 感電 | その他 | | |
| 原因 | 作業準備の不良 | 作業方法の不良 | 工具防具の不良 | 電気工作物の不良 | 作業者の過失 | 共同作業者の過失 | その他 | | | |

**災害の状況**

［件　名］

玉切り作業中，左足が玉切りした木の下敷きになり受傷

［作業内容］

チェンソーによる伐採・玉切り作業

［発生状況］

重なっている伐倒木を玉切りにした際,玉切りした木が被災者側に転がり,左足が下敷きになり受傷した。

［被災程度］

左足 内側側副靭帯損傷・脛骨高原骨折（全治5～6ヵ月見込み）

［服装・装備］

保安帽,フェイスシールド,イヤーマフ,防振手袋,チェンソーブーツ
下肢切創防止保護具（ズボンタイプ）

［発生原因］

①伐採木が重なるように伐倒した。
②玉切りに対する危険予知が不足していた。
③玉切り対象木の安定状況確認が不足していた。

［再発防止対策］

①作業前に，作業班長と作業員が作業場所の作業範囲・伐倒方向をよく確認し，伐採木が重ならないように一度の伐倒本数を制限したり，伐倒木が確実に重なると判断したときは先に玉切り集積を実施する。
②経験則に基づく判断に頼らず，伐採木が重なった状態はすでに不安定な状態であることを認識する。
③玉切り材全体を見通して材が安定していることを確認する。また，複数の伐倒木を玉切りする場合は処理する順序を作業員全員で検討し，その順序に従って玉切りを行う。

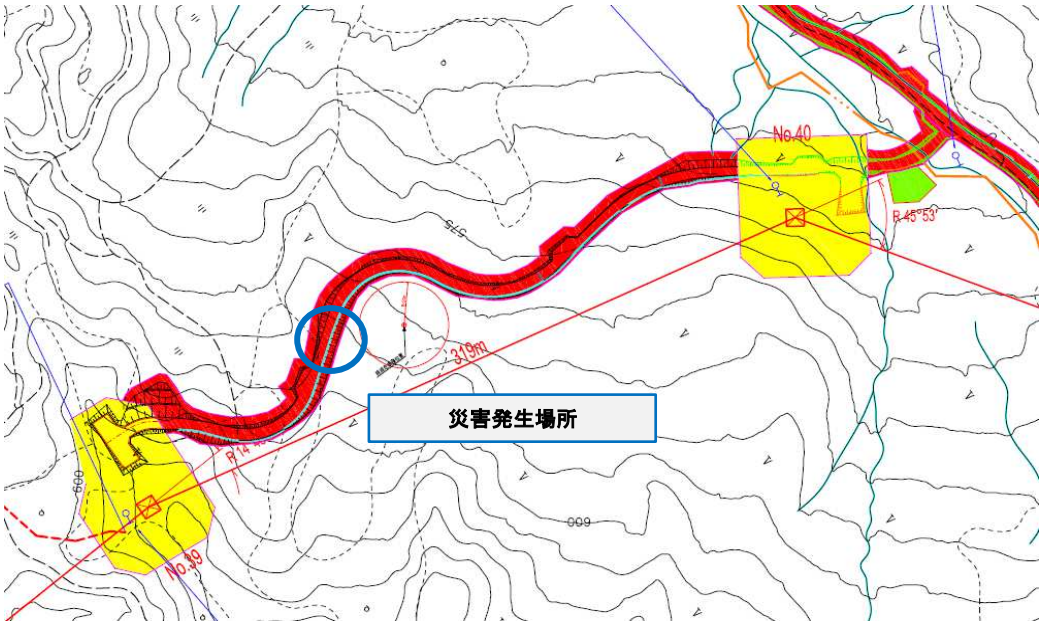
（注）1.「人身災害報告要領」に基づいて記載するものとし、「工事の種類」「災害の種類」「原因」については該当項目に○印を付ける。
2. 災害状況の説明と共になるべく図面を添付すること（様式－2）。
特に感電の場合は支持物、電線の離隔距離その他寸法を記入する。

（様式－2）

# 災　害　概　要　図

発生状況

位　置　図

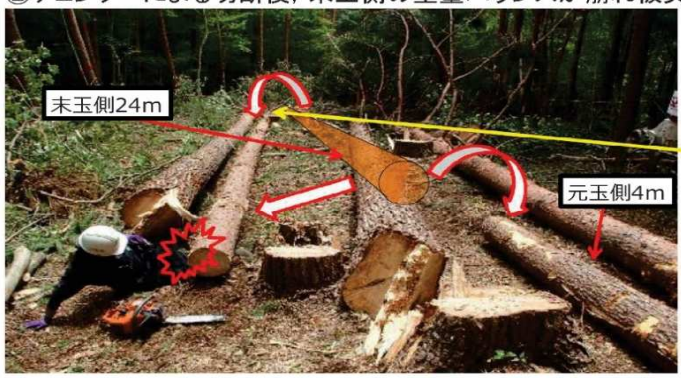



現場状況

①被災者は重なっている伐倒木を玉切りした。

玉切りする木は切り株の上にも乗っていた

②チェンソーによる切断後，末玉側の重量バランスが崩れ被災者側に転がり，左足が下敷きになった。



切り株から滑り落ちたことで、さらに被災者方向に
落下し、激突・下敷きとなった